

# 特別委員会 活動報告

## 河川環境保全対策

8月19日に関係部長等の出席を得て、川原子地区の養豚場及び河川事業の現況について報告を受けた。

川原子地区の1箇所の養豚場について、現地見学会を行った。当該養豚場の水質検査に關し、BOD（生物化学的酸素要求量）は、採取した全てのポイントで基準を満たしていた。

次に、もう1箇所の養豚場については、本年5月頃までに近隣住民から悪臭や汚水に關する苦情があり、その都度、改善指導が行われ、施設の改修により対応しており、現在では苦情は少なくなっている。次に、河川事業の現況について、平家川及び斎川の現地調査を実施した。

平家川の河川改修は、国道4号から上流の区間1千100メートルについて地形測量を終了しており、今後、用地買収、



養豚場職員による説明

整備工事を進めていく予定であり、平成27年度を目標に整備する予定である。

本特別委員会としては、これら河川事業について、今後とも、市と連携を図りながら、白石川を含めた平家川等の中小河川の管理や改修促進のために、情報の収集や要望活動を実施していくことを確認した。



## 討 論

次の議案について本会議で討論が行われ、表決の結果、賛成多数で認定しました。

◎第60号議案・平成20年度白石市各会計歳入歳出決算の認定について

### 反対

本決算を全体的に見れば、歳入では、市税等や交付税など、前年とほぼ同額であったが、歳出では、一市二町組合への負担金と国保特別会計への繰入金、合わせて約6億9千万円を手当しており、経常収支比率をさらに悪化させている。

歳入は、市税収納率の向上など、大変努力されている様子にはうかがえる。

歳出については、集中改革プランに基づいて執行され、目標値を大きく超えた効果額を出しているが、財政の弾力性は、硬直化の一途をたどっている。

また、下水道事業においては、水洗化率の向上は絶対必要で重要な条件であり、このことよって、関係業者の仕事おこしもつながるものである。

景気低迷の中、工場の閉鎖などもあり、ハローワーク大河原管内の有効求人倍率は0.11で宮城県内でも最低になっている。

こうした中で、市民の経済基盤確立のためにも、暮らし応援に、もっと税金を使う予算執行を願ひ、平成20年度決算の認定に反対するものである。

### 賛成

百年に一度と言われる経済不況により、市民生活全般にわたり厳しい情勢の中で、税収の低迷や一市二町組合、国保財政への財政支援など緊急財政支出があったが、市の基本施策である「4万人都市復活大作戦」の中心的役割実現のため、出産支援、子育てサポート、高齢者支援、地域コミュニティ育成、定住支援策等々、市独自の市民生活サポート事業を積極的に推進したことは、「市民総参加の共創」に大きく寄与したものと考える。

今後においても、厳しい財政状況にはあるが、中長期的な展望に立って、健全で安定した財政運営に努められるよう要望し、本案の認定に賛成するものである。

